

現地レポート／ 富田 賢吾（物理科学研究科天文科学専攻）

派遣先：スペイン、ドイツ、イギリス

派遣先機関名：主にエクセター大学

派遣期間：2010年5月30日～2010年7月12日

2010年6月23日報告分

授業・研究の進捗状況

ここまでで IAU Symposium 270 と EPoS 2010 という二つの会議に参加し、その間の一週間 MPIA に滞在しました。IAU は非常に大きい国際会議で多数の参加者があり、星形成の小さいスケールから銀河規模の大きいスケールまで各分野での最先端の研究の進捗に触れることができました。一方 EPoS はより少人数でテーマを明確にした滞在型研究会であり、参加者同士で活発な議論が行われていました。二つの研究会を通し多数の自分の研究と関連する分野の研究者と交流することができ、私にとって大変有意義であったと思います。また MPIA の Benoit Commerçon とは計算コードの比較の論文を書こうという話になっており、共同研究のきっかけにもなりそうです。

生活関連状況

Exeter に移動してから風邪で体調を崩し 2 日程寝ていましたが他は特に問題ありません。スペインやドイツなど非英語圏の方がイギリスよりもお互い英語が不自由なので逆に気を使ってくれて意思疎通がしやすいと感じました。

その他報告すべき事項

我々が取り組んでいる研究と良く似たテーマが他の幾つかのグループでも行われているということがわかりました。これは我々が「正しい」（少なくとも科学者の常識的センスに外れていない）道を歩んでいるという心の支えになる一方で、競争の激しい分野であるという事実を認識せずにはいられません。この分野で国際的に存在感を保つには大変な努力をしなければならないこと、競争に勝つためには適切な戦略が必要であること、そのために何をしなければならないのか、改めて考える良いきっかけになったと思います。